

乳がん 高度検診・治療センター NEW ーす NO.42

2017.11

乳がんの転移と再発(2)

前号に引き続き乳がんの転移と再発を取り上げますが、今回は転移・再発乳がんの治療や、再発発見のための検査の意義について解説します。

転移・再発乳がんの治療

骨や肺などにすでに転移のあるIV期乳がんや、手術後一定の期間を経てからの再発乳がんでは、すでに全身に乳がん細胞が広がった状況ですので薬物療法が治療の基本となります。

再発乳がんでも「手術で取り切れないのだろうか？」と考える患者さんが多いのですが、①乳房温存療法後の乳房内再発、②乳房切除術後の胸壁再発、③センチネルリンパ節生検後の腋窩（わきの下）リンパ節からの再発、などを除き手術の対象とはなりません。これら以外の遠隔再発（他の臓器からの再発）ではがんの治癒を目指すのは困難ですので、病気の進行を抑えたり、症状を和らげる目的での治療となります。抗がん剤治療、ホルモン療法、分子標的治療などの薬物療法が治療の中心となりますが、今では薬剤の種類も非常に増えてきています。再発部位によっては放射線療法の選択肢もあります。

誤った情報をもとに民間療法に走る患者さんも見かけられますが、「末期がんが消失した」といったたぐいの宣伝文句に振り回されないようにしてください。

乳がんとうまくつきあっていく心構えが何より大切です。

再発の早期発見は意味があるのか？

がんは早期発見・早期治療 — このスローガンは実は初発の乳がんについてのことであって、乳がん初期治療（手術やその前後の薬物療法、放射線療法など）後の再発についてはあてはまりません。治療後無症状の時期に頻回の検査により小さい転移の段階で発見して治療を開始しても、症状が現れてから治療を開始しても最終的に生存期間に差がないからです。

ただし、乳房温存療法後の乳房内再発や、反対側に新たにできた乳がんは、早期発見が治癒に結びつく可能性が高いですので、年1回のマンモグラフィや乳腺超音波検査は必要です。

CTなどの画像検査は、術後一律に年1回といった決まりがあるわけではなく、日常生活で体調に異変を感じたとき、その状況を担当医に伝えて適切な検査を受けるのがよいでしょう。とは言っても、CTなど遠隔転移の諸検査については悩ましい問題でもあり、個々の患者さんの性格によってもその意義は違ってきます。患者さんによっては、検査を受けることにより少なくともその時点で再発がないと確認できることで安心感が得られることもあるでしょう。もとの病気の進行程度やタイプによって、担当医の判断で適宜、必要に応じてCTなどの検査を行います。患者さんの希望も配慮いたしますので、遠慮なく申し出てください。

さらに詳しいこと
をお知りになり
たいことがありま
したら乳がん高度
検診・治療セン
ターにお問い合わせ
ください。

市立貝塚病院

TEL : 072-422-5865

乳腺外科 稲治英生

